令和7年度　中央区地域力向上事業（助成事業）　事後評価シート【西地域】

No.	事業名	団体名	評価					総事業費	市執行額（補助金額）	採択回数
			達成度	活用度	貢献度	支援の妥当性	費用対効果			
1	地域の子どもたちと「庄内へちま×和紙」を通した交流授業体験と広報	庄内半島ドリームプロジェクト「庄内へちま×和紙」実行委員会	B	A	A	B	B	1,097,610円	434,000円	2回目
2	中村家住宅でリズムヨガ～世代を越えて仲良く健康に～	子育て支援の会ひらがなくらぶ	B	A	B	B	A	1,258,178円	619,000円	1回目
3	うみいろそらいろ浜松へちまプロジェクト	浜松へちまミライ	B	A	B	A	A	347,187円	138,000円	2回目
4	浜名湖クルーズ～船から見る伊佐見と浜名湖の生き物体験事業～	伊佐見地区コミュニティ協議会	B	A	A	A	B	384,158円	96,000円	3回目
5	伊佐見田んぼアート	伊佐見地区コミュニティ協議会	A	A	A	A	B	703,763円	281,000円	2回目
6	伊佐見小学校150周年記念事業	浜松市立伊佐見小学校PTA	B	B	B	B	B	2,541,842円	232,000円	1回目
							合計	6,332,738円	1,800,000円	

地域力向上事業の評価基準について

評価項目	評価		
事業目的の達成度	A　高い	B　普通	C　低い
地域資源の活用度	A　高い	B　普通	C　低い
地域への貢献度	A　高い	B　普通	C　低い
財政支援の妥当性	A　高い	B　普通	C　低い
費用対効果	A　高い	B　普通	C　低い

助成事業 No. 1

＜ 令和7年度 ＞　（ 中央区 西行政センター ）

(1)事業名	地域の子どもたちと「庄内へちま×和紙」を通した交流授業体験と広報	(2)採択回数	2回目 (補助率40%以内)
(3)実施団体名	庄内半島ドリームプロジェクト「庄内へちま×和紙」実行委員会		
(4)事業の目的	1 地域のこどもたちと庄内地区の魅力を一緒に考える。 2 地域のこどもたちと「庄内へちま和紙」の新しい用途を考える。 3 地域住民に庄内地区の価値を知ってもらう。 4 地域ブランディングを通して庄内地区を活性化させる。		

(5)事業の成果(内容)

イベント名	地域の子どもたちと「庄内へちま×和紙」を通した交流授業体験と広報
実施時期	令和7年4月1日(火) ～ 令和8年3月31日(火)
実施場所	庄内地区
内容	1 へちま和紙の原料栽培(4月から6月) ・オイスカ専門学校の農場で、和紙原料となるへちま、楮、トロロアオイの栽培に、地域住民やオイスカ高校の生徒が挑戦した。 2 へちま和紙製品化に関する授業(1月14日) ・庄内学園の5・6年生を対象に、どんな製品にへちま和紙を活用できるか考えてアイデアを共有する授業を実施。 3 へちま和紙作り体験(1月から2月) ・(1月21日)オイスカ高校3年生40人が参加。 ・(1月17日)庄内協働センターで実施。地域のこども10人が参加。 ・(1月24・25日)クリエート浜松で実施。地域住民120人が参加。 ・(2月18日)北庄内幼稚園で実施。園児と保護者30人が参加。 4 広報活動(通年) ・公共施設等でチラシやポスターを配架・掲示して事業を宣伝。

(6)総事業費	1,097,610円	(7)補助金額	434,000円

(8)評 価

項 目	評価 A	評価 B	評価 C
1 事業目的の達成度	高い	(普通)	低い
2 地域資源の活用度	(高い)	普通	低い
3 地域への貢献度	(高い)	普通	低い
4 財政支援の妥当性	高い	(普通)	低い
5 費用対効果	高い	(普通)	低い

(9)意見等

1 事業目的の達成度
・地域のこどもたちが庄内地区の魅力やへちま和紙の活用方法などを考えることを通し、地域資源による地域活性化を考える機会となった。
2 地域資源の活用度
・庄内地区にゆかりのあるへちまを活用して事業を実施できた。
・庄内学園やオイスカ高校と協働で事業を実施し、地域住民のボランティアの協力を得て事業を進められた。
3 地域への貢献度
・事業により、耕作放棄地の活用方法などをこどもたちに教えることができ、庄内地区の活性化について考えてもらう機会を提供できた。
・庄内学園で郷土の歴史や地域ブランド化の手法を題材に授業を行い、こどもたちが地域の歴史に触れることができた。
4 財政支援の妥当性
・耕作放棄地の増加、人口減少といった庄内地区が現在抱える課題を知るきっかけを、地域のこどもたちに提供できた。
5 費用対効果
・こどもたちや地域住民が、へちまを通じて庄内地区について考えるきっかけを作ることができた。

第１０号様式（第１０条関係）

事業実績書

事業名	地域の子どもたちと「庄内へちま×和紙」を通した交流授業体験と広報
事業主体名 （共催、後援、協力等）	庄内半島ドリームプロジェクト　「庄内へちま×和紙」実行委員会
実施時期	令和７年４月１日（火）　～　令和８年３月３１日（火）
実施場所	庄内学園・オイスカ高校・庄内協働センター・クリエート浜松
参加人数	団体スタッフ　32 人　、参加者　350 人
事業の内容	**・へちま和紙の原料づくり体験** オイスカ専門学校の農場を借りて、へちま、楮、トロロアオイの栽培に挑戦した。ただ、いずれの作物も上手く育たず、本年度は失敗という結果に終わった。 場　所：オイスカ専門学校農場（2500 ㎡） 参加者：オイスカ高校生徒など３０人 日　時：６月１９日（木）に種蒔き、苗の植え付け **・へちま和紙製品化に関する授業** 庄内学園の５・６年生の児童を対象に、かつて農業が盛んだった庄内地区の歴史や、へちま和紙をどんな製品に活用できるか考えてもらう授業を実施した。児童にはテキスト（A4 カラー４ページ）とワークシート（A4 モノクロ４ページ）を配布し、庄内地区を活性化させるアイデアを考えて書いてもらった。また、へちま和紙に特に興味を持った児童７人で「プロジェクト委員会」を結成し、へちま和紙の製品化についてより深く探求する会議を２回実施した。 場　所：庄内学園 参加者：庄内学園５・６年生　計１０８人 日　時：令和８年１月１４日（水） **・へちま和紙作り体験** 下記の４か所で紙すき体験会を実施した。楮とへちまを煮て細かく砕き、トロロアオイを溶かした液体に混ぜて原料を作り、平安時代から続いている『溜め漉き』という手法で紙漉きを行い、水分を乾かせば完成となる。この一連の流れを、オイスカ高校の生徒や地域住民が体験できる機会を提供した。

	（1）オイスカ高校 日　時：1月21日（水） 参加者：オイスカ高校3年生・教員　計40人 備　考：作ったへちま和紙は卒業証書として活用。プロの書家に3年生全員分の卒業証書を書いてもらった。正式な卒業証書ではないが、記念品として生徒に贈った。 （2）庄内協働センター 日　時：1月17日（土） 参加者：地域の子どもたち　10人 （3）クリエート浜松 日　時：1月24日（土）25日（日） 参加者：2日間で120人 （4）北庄内幼稚園 日　時：2月18日（水） 参加者：年長・年中児童、保護者　計30人 **・事業の広報** 当初の予定通り、チラシを2,000枚、ポスターを100枚印刷し、協働センター、神社、幼稚園、小学校で配架・掲示したり、地域の会合で配布したりして、事業の宣伝や参加者募集を進めた。
事業目的の達成度	**・地域の子どもたちと庄内地区の魅力を一緒に考える** 学校での授業や和紙づくり体験を通じて、庄内地区の歴史やへちまの繊維を混ぜた和紙の強み、耕作放棄地を生かしたへちま原料栽培の可能性など、庄内地区のポテンシャルについて考えるきっかけを子どもたちに提供することができた。 **・地域の子どもたちと「庄内へちま和紙」の新しい用途を考える** 学校での授業やプロジェクト委員会での活動を通し、子どもたちがへちま和紙の使い方を主体的に考える時間を提供することができた。へちま和紙の用途として、ペンケース、小さなバッグなどのアイデアが出た。 **・地域住民に庄内地区の価値を知ってもらう** 子どもたちは授業を通して、庄内地区の魅力について考えると同時に、自分たちが考えた地元の魅力を他人に伝える力も養ってもらった。まずは子どもたちが地元の魅力を理解し、それを大人に伝えていく事で、庄内地区の魅力が地域住民に広く伝播する土台を作ることができた。

地域資源の活用度	・ヒト 庄内学園やオイスカ高校の教職員協力のもと、地域の子どもたちを対象とした授業・和紙作り体験・和紙原料栽培を実施することができた。また、事業実施に際して地元の有志がボランティアとして参加してくれて、授業の準備、和紙作り体験のサポートなどをしてくれた。 ・モノ 庄内地区とゆかりのあるへちまを生かして、和紙作り体験・庄内地区の魅力発信を実施することができた。また、へちま和紙原料栽培体験は、オイスカ専門学校の農場を活用して進められた。
地域への貢献度	庄内地区の将来を担う子どもたちを中心に、へちま和紙の有用性や庄内地区のポテンシャルを知ってもらう機会を提供できた。耕作放棄地の増加や人口減少という庄内地区の課題に正面から向き合う機会となり、地域の魅力を発見し、それを製品化する意義や地域ブランド化していく方法を子どもたちに教えることができた。
財政支援の妥当性	「庄内へちま×和紙」の活用方法を自分たちでアイデアを出し合う活動を通し、こどもたちが地域のブランド化や耕作放棄地の活用の方法などを知ってもらう機会となり、庄内地区の活性化について考えてもらうきっかけを提供することができた。
費用対効果	へちまの繊維を混ぜた和紙を自分たちで作ってもらうという貴重な体験を、地域の子どもたちや地域住民に提供することができた。庄内地区の未来を担う子どもたちに、和紙作り体験を通して地域活性化の手法や耕作放棄地の活用方法などを通して教えることができた。
今後の方向性	令和８年度は事業開始から３年目となるので、３年間の事業の総括、「庄内へちま×和紙」の実用化・ブランド化に焦点を当てて事業を実施していきたい。また、本年度初挑戦したものの上手くいかなかった和紙原料の栽培に再チャレンジする予定だ。
備考	

第１１号様式（第１０条関係）

収支決算書

1　収入の部　　単位：円

区分	決算額	予算額	比較		経費内訳（単価・数量）
			増	△減	
補助金	434,000	434,000			地域力向上事業（市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金）
計	1,097,610	1,087,000	10,610		

2　支出の部　　単位：円

区分	補助対象※	決算額	予算額	比較		経費内訳（単価・数量）
				増	△減	
報償費	○	350,000	385,000		△35,000	・授業謝礼 60,000 ・書家謝礼 15,000 ・和紙職人 275,000
消耗品	○	415,000	430,000		△15,000	・へちま 30,000 ・和紙材料 385,000
委託料	○	83,600	76,000	7,600		チラシ・ポスター デザイン 83,600
委託料	○	103,400	94,000	9,400		チラシ・ポスター 印刷費 103,400
使用料 賃借料	○	3,640	9,000		△5,360	庄内協働センター3,640
手数料	○	7,480	0	7,480		振込手数料
原材料費	○	134,490	93,000	41,490		・トロロアオイ種 3,440 ・楮の苗 99,000 ・楮の苗 32,050
計		1,097,610	1,087,000	10,610		
うち補助対象経費		1,097,610	1,087,000	10,610		

※補助対象事業に○を記載してください。

助成事業 No. 2

＜ 令和7年度 ＞　　（ 中央区　西行政センター ）

(1)事業名	中村家住宅でリズムヨガ ～世代を越えて仲良く健康に～	(2)採択回数	1回目 (補助率50%以内)
(3)実施団体名	子育て支援の会ひらがなくらぶ		
(4)事業の目的	1　重要文化財・中村家住宅でのイベント開催により、コミュニティや地域の絆の強化を図る。		

(5)事業の成果（内容）

イベント名	中村家住宅でリズムヨガ　～世代を越えて仲良く健康に～
実施時期	令和7年4月1日（火）　～　令和8年3月15日（日）
実施場所	重要文化財　中村家住宅
内容	1　リズムヨガ・ペアヨガ（5月から3月毎週金曜、猛暑・厳寒期を除く） ・中村家住宅に地域住民や参加希望者を集め、リズムヨガやペアヨガを体験するイベントを実施。 2　週替わりアクティビティ（5月から3月毎週金曜、猛暑・厳寒期を除く） ・リズムヨガ終了後、週替わりのアクティビティを実施。 （ブツブツ交換会、大河ドラマの歴史勉強会、ハンドメイド作り体験、日本のお魚講演会、居場所に関する講演会、参加型ライブ等） 3　広報活動（通年） ・事業の周知、参加者募集のため、チラシを作成して配架・回覧した。 ・新聞、ラジオ、テレビ、ネット記事、SNSなど各種メディアを通して事業を周知した。

(6)総事業費	1,258,178円	(7)補助金額	619,000円

(8)評　価

項　目	評価 A	評価 B	評価 C
1　事業目的の達成度	高い	(普通)	低い
2　地域資源の活用度	(高い)	普通	低い
3　地域への貢献度	高い	(普通)	低い
4　財政支援の妥当性	高い	(普通)	低い
5　費用対効果	(高い)	普通	低い

(9)意見等

1　事業目的の達成度
・1回あたりの参加者数は約18.5人と当初の目標（1回あたり15人）を上回り、中村家住宅を活用しながら参加者同士の交流を促進することができた。
2　地域資源の活用度
・地域の重要文化財で体を動かすという貴重な体験を提供することができた。
・中村家住宅に絡めて「歴史の勉強会」を実施するなど、その場所だからこそ意義があるコンテンツを取入れていた。
3　地域への貢献度
・地域住民に、定期的に集まって住民同士で会話を交わせる場所を提供することができた。
・事業の様子をSNSで配信したことで、中村家住宅の魅力を広く発信することができた。
4　財政支援の妥当性
・行政管理の中村家住宅を有効活用し、地域住民が交流する場を提供することができた。
5　費用対効果
・事業を通し、地域住民が交流する場を提供することができた。

第１０号様式（第１０条関係）

事業実績書

事業名	中村家住宅でリズムヨガ　～世代を越えて仲良く健康に～
事業主体名 （共催、後援、協力等）	子育て支援の会　ひらがなくらぶ
実施時期	令和７年４月１日（火）　～　令和８年３月１５日（日）
実施場所	重要文化財　中村家住宅
参加人数	団体スタッフ　延べ 92 名　、参加者　延べ 426 名
事業の内容	**・リズムヨガ、ペアヨガ** ５月から３月までの毎週金曜（猛暑期・厳寒期を除く）午後に、雄踏町にある重要文化財中村家住宅でリズムヨガやペアヨガを体験するイベントを開催し、地域住民や口コミを聞いて訪れた方など、全 23 回のイベントに延べ 426 人が参加した。参加者は１時間程度、音楽に合わせて体を動かしたり、参加者同士でペアを組んでストレッチを行ったりした。また、座った状態で名前を呼び合いながら風船の入った袋をパスし合う風船バレーなどヨガ以外の運動も取り入れ、参加者は体を動かしながら人と人との交流を楽しんだ。 **・週替わりアクティビティ** ヨガ終了後、週替わりのアクティビティを実施し、参加者同士の交流促進、生きがいづくりを図った。 **（１）ブツブツ交換会** 日時：5 月 30 日、7 月 4 日、10 月 17 日、11 月 21 日（全４回） 内容：参加者同士でぶつぶつと会話を楽しみながら、持ち物を交換した。例を挙げると、新品の洋服、使わない洗剤を参加者同士で交換した様子が見受けられた。 **（２）歴史の寺子屋（全 10 回）** 講師：ごりんぼう先生（大河ドラマ研究家） 内容：40 年間毎週欠かさず NHK 大河ドラマを視聴している「大河ドラマ研究家」を講師に迎え、中村家住宅で誕生した結城秀康に関する歴史や、大河ドラマに関する豆知識など全 10 回にわたる勉強会を実施した。

（3）日本文化とハンドメイド

日時：6月13日

講師：松永媛香先生（手作り雑貨専門店 POTSUN）

内容：市内でハンドメイド雑貨の販売を行う講師を迎え、あづま風呂敷を作成する体験会を実施した。あづま風呂敷とは、取っ手の付いた風呂敷のことで、中村家という歴史的建造物にふさわしいハンドメイド作品を選んだ。25人が参加した。

（4）浜松のお魚講演会

日時：6月20日

講師：加茂仙一郎先生（海老仙社長）

内容：浜名湖の海産物に関する豆知識や、魚介類を摂取することで健康にどのような効果があるかをテーマに、雄踏地区で浜名湖の海産物を取り扱う会社の社長が講演を行った。40人が参加した。

（5）シルバー世代の居場所に関する講演会

日時：10月18日

講師：平田ひろのぶ先生（講演家・作家）

内容：学生相談員を行っている講師を迎え、高齢者が自分の居場所を作るための講演会を実施した。43人が参加した。

（6）参加型ミニライブ

日時：11月8日

歌手：nagi さん（シンガーソングライター）

内容：音響機材を中村家住宅に運び、ミニライブを実施した。また、音楽に合わせてホワイトボードに花の形のマグネットを貼って花束の絵を作るアクティビティを取り入れるなど、聴衆がただ音楽を聴くだけではない「参加型」のミニライブという形をとった。

・事業の宣伝

参加者を集めるため、チラシを作成して雄踏地区内で回覧を行ったり、公共施設で配架したりした。また、新聞やラジオなどメディアを通じて事業を宣伝することができた。各種メディアでの宣伝実績は以下のとおりである。

・新　聞：静岡新聞３回（6/12、10/25、10/30）
　　中日新聞１回（5/20）

・ラジオ：SBS ラジオ２回、K-MIX２回

・テレビ：ケーブルウィンディ１回

・その他インターネット、SNS で多数掲載

事業目的の 達成度	**・イベント開催によるコミュニティ、地域の絆の強化** 重要文化財中村家住宅で毎週金曜日にリズムヨガのイベントを実施したことで、地域住民が定期的に集まって顔を合わせる場所を提供することができた。参加者はシニア世代が中心だったが、時には子育て世代や現役世代の方も参加してくれて、世代間交流の場としても生かすことができた。参加者からの事後アンケートは計 45 通集まり、「この事業を機に地域住民と交流が持てた」「仲良くなれた」「情報交換をすることができた」などの声をいただいている。
地域資源の 活用度	**・重要文化財中村家住宅** 中村家住宅は雄踏地区が誇る歴史的重要文化財である。1年間の事業で計 23 回利用した。歴史的建造物とヨガという異色の組み合わせで、参加者は体を動かしながら地元の歴史を体で感じ取ることができた。参加者からのアンケートには、「中村家住宅で歴史の話を聞いたことで、より興味深く感じ歴史の面白さを感じることができた」という意見もあり、中村家住宅を会場にしたからこそ意義のある事業だったと感じている。
地域への 貢献度	**・定期的に集まれる場所の提供** 毎週金曜日に定例的に事業を行う事で、地域住民に「毎週中村家住宅に行ってみんなと会う」という習慣をもってもらうことができた。参加者の中には「一人暮らしで丸一日誰とも喋らない日がある」という方もいて、事業を通して人と交流できる機会を提供し地域住民の生きがいづくりに寄与することができた。 **・重要文化財中村家住宅の魅力発信** 毎週、参加者の承諾を得たうえでリズムヨガや週替わりアクティビティの様子をライブ配信していた。その中で、視聴者から「すごい場所」「行ってみたい」などのコメントが寄せられており、中にはライブ配信をきっかけに県外から中村家住宅の見学に訪れた方もいた。このように、事業の様子を広く伝えながら、雄踏地区の誇りである中村家住宅を広範囲に PR することができた。
財政支援の 妥当性	行政が管理している中村家住宅を「ヨガイベントの開催」という形で1年を通じて有効利用することができた。「歴史的重要文化財」と「ヨガ」という異色のコラボレーションにより、地域住民が交流する場の提供と地域の歴史的重要文化財の PR をすることができた。

費用対効果	事業実施前、各回での目標参加人数は 15 人としていたが、全 23 回のイベントに延べ 426 人が参加した。1 回あたりの参加者数は約 18.5 人と、当初の目標を上回った。参加者が予想以上に集まり、その分参加者同士の交流促進や中村家住宅の魅力発信ができた。
今後の方向性	令和 8 年以降は、補助申請をせず自力で事業を行っていく。場所も中村家住宅だけに囚われず、協働センターなど様々な場所で開催したい。
備考	

第１１号様式（第１０条関係）

収支決算書

1　収入の部　　単位：円

区分	決算額	予算額	比較		経費内訳（単価・数量）
			増	△減	
補助金	619,000	619,000			地域力向上事業（市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金）
計	1,258,178	1,239,000	19,178		

2　支出の部　　単位：円

区分	補助対象※	決算額	予算額	比較		経費内訳（単価・数量）
				増	△減	
報償費	○	410,000	410,000			別紙参照
賃金	○	175,128	176,000		△872	別紙参照
旅費	○	45,450	46,000		△550	別紙参照
消耗品	○	116,232	115,000	1,232		別紙参照
食糧費	○	9,178	0	9,178		別紙参照
印刷製本費	○	510	0	510		別紙参照
郵便料	○	2,330	0	2,330		別紙参照
使用料賃借料	○	28,350	22,000	6,350		別紙参照
委託料	○	471,000	470,000	1,000		別紙参照
計		1,258,178	1,239,000	19,178		
うち補助対象経費		1,258,178	1,239,000	19,178		

※補助対象事業に○を記載してください。

支出品目	No.	金額	内訳
報償費	81	50,000	ハンドメイド講師
	82	50,000	お魚講演会講師
	83	100,000	居場所に関する講演会講師
	84	110,000	ミニライブ歌手
	85	100,000	歴史講座講師
	計	410,000	
賃金	86	23,782	賃金
	87	23,782	賃金
	88	23,782	賃金
	89	23,782	賃金
	90	20,000	駐車場整理　賃金
	91	20,000	駐車場整理　賃金
	94	20,000	駐車場整理　賃金
	95	20,000	駐車場整理　賃金
	計	175,128	
旅費	81	1,040	ハンドメイド講師
	83	8,750	居場所に関する講演会講師
	84	17,260	ミニライブ歌手
	85	18,400	歴史講座講師
	計	45,450	
消耗品	2	1,092	コピー用紙
	3	440	名札
	4	2,178	バスケット
	5	550	文房具
	7	648	コピー用紙
	8	298	コピー用紙
	9	8,470	ヨガマット
	10	17,026	虫よけ剤
	11	990	風船
	12	9,510	マスク等衛生用品
	13	1,122	コピー用紙
	15	340	マスク等衛生用品
	17	8,631	布
	19	5,192	文房具
	21	1,806	ゴミ袋
	24	5,596	立て看板
	27	1,298	クリアホルダー
	30	1,650	ゴミ袋、クリアホルダー等
	31	10,317	布
	32	180	新聞
	33	2,550	布
	35	550	風船
	39	1,830	アルコールガーゼ
	43	1,096	虫よけ剤
	51	578	コピー用紙
	53	220	文房具
	56	110	ファイル
	63	20,608	テープ
	66	220	ピンフック
	68	448	コピー用紙
	70	6,668	コピー用紙
	71	2,376	クリアケース
	79	1,644	ホッカイロ
	計	116,232	

食糧費	37	3,035	熱中症予防飲料
	78	6,143	熱中症予防飲料
	計	9,178	
印刷製本費	1	50	チラシコピー代
	18	110	チラシコピー代
	22	50	チラシコピー代
	25	40	チラシコピー代
	26	50	チラシコピー代
	28	50	チラシコピー代
	40	160	チラシコピー代
	計	510	
郵便費	23	180	郵便代
	48	2,150	郵便代
	計	2,330	
使用料 賃借料	6	200	駐車料金
	41	400	駐車料金
	44	600	駐車料金
	49	700	駐車料金
	54	100	駐車料金
	55	550	駐車料金
	61	400	駐車料金
	62	500	駐車料金
	65	200	駐車料金
	67	700	駐車料金
	72	200	駐車料金
	74	600	駐車料金
	75	700	駐車料金
	76	700	駐車料金
	77	600	駐車料金
	92	18,400	中村家入館料
	93	2,800	中村家入館料
	計	28,350	
委託料		471,000	チラシデザイン
	計	471,000	
	計	1,258,178	

助成事業 №. 3

＜ 令和7年度 ＞　（ 中央区　西行政センター ）

(1)事業名	うみいろそらいろ　浜松へちまプロジェクト	(2)採択回数	2回目 (補助率40%以内)
(3)実施団体名	浜松へちまミライ		
(4)事業の目的	1　へちまのポテンシャルの高さを認知拡大させる。 2　へちまブランドとしての中央区から浜松全体を盛り上げる。 3　へちまを通じて西地域の環境改善の意識を高める。		

(5)事業の成果(内容)

イベント名	へちま栽培、加工体験等
実施時期	4月から10月
実施場所	浜松市中央区
内容	1　へちまの種苗の配布とグリーンカーテン協力者集め(4月から6月) ・参加者や来場者にへちまの種や苗を配布し、グリーンカーテンづくりに協力してくれるメンバー「つくり隊」を募った。50団体、252人が参加。 2　へちまスポンジ利用者を広める(通年) ・へちまスポンジ利用に協力してくれるメンバー「つかい隊」を募った。 ・43団体、456人が参加。 ・プロジェクト参加者にへちま感謝状を贈呈。 3　イベントの開催(通年) ・キックオフ会:プロジェクトの説明、苗作り。30人が参加。 ・満月へちま会:自宅で栽培できない人向けの栽培体験会。 ・グリーンカーテンづくり:瓜内町の中部浄化センターで実施。70人参加。 ・へちま収穫祭:栽培体験談のシェア、スポンジ作り体験。30人参加。 4　イベントでの出展(通年) ・各種イベントに出展し、種苗の配布・参加者募集を実施。 5　広報活動(通年) ・メルマガやnoteを定期的に更新。 ・新聞、テレビ、ラジオなど各種メディアで掲載。

(6)総事業費	347,187円	(7)補助金額	138,000円

(8)評　価

項　目	評価 A	評価 B	評価 C
1　事業目的の達成度	高い	(普通)	低い
2　地域資源の活用度	(高い)	普通	低い
3　地域への貢献度	高い	(普通)	低い
4　財政支援の妥当性	(高い)	普通	低い
5　費用対効果	(高い)	普通	低い

(9)意見等

1　事業目的の達成度
・イベントの参加者が参加目標(50団体、個人400人)を上回った。
・西地域でのへちま栽培イベントの開催でへちまに触れる機会を設けることで、環境改善の意識を高めるきっかけを提供することができた。
2　地域資源の活用度
・休耕地や庭の空きスペースなどをへちま栽培の場所として活用することができた。
・地元のへちま産業を築き上げた庄内地区出身の織田利三郎の歴史を講義に活用することができた。
3　地域への貢献度
・各種メディアに掲載され、へちまの認知向上に併せて西地域の魅力を地域外に周知する機会をつくることができた。
・スポンジづくり体験やへちま栽培体験などを地域住民と協力して実施し、へちまの魅力を知るきっかけを提供できた。
4　財政支援の妥当性
・目標数を上回る参加者に対し、へちまの魅力を広めることができた。
・浜松市地方創生SDGs取組表彰を受賞し、SDGsの取り組みへの貢献を認められた。
5　費用対効果
・チラシ、ポスター、のぼり旗での宣伝のほか、各種メディアでの掲載などを通し、本事業の周知を行うことができた。

第１０号様式（第１０条関係）

事業実績書

事業名	うみいろ そらいろ 浜松へちまプロジェクト
事業主体名 （共催、後援、協力等）	浜松へちま・ミライ
実施時期	令和７年４月 １日（火）　～　令和８年３月 30 日（月）
実施場所	浜松市中央区全域
参加人数	団体スタッフ４名　、参加者 500 名
事業の内容	**○へちまの種や苗の配布とグリーンカーテン協力者集め** 後述のキックオフ会やイベント出展において、参加者や来場者にへちまの種や苗を配布し、へちまグリーンカーテンづくりに協力してくれるメンバー「つくり隊」を募った。最終的に、50 団体、252 人が「つくり隊」に参加した。また、４月から５月にかけて、下記の４店舗で希望者がへちまプロジェクトに参加する際のサポートに協力してもらった。 ・中地域　カスミヤ（田町） ・東地域　菜食カフェくりや（小池町） ・西地域　Green Box 桜台店（大山町） ・北地域　フェイバリットブックスＬ（浜名区中条） **○へちまスポンジ利用者を広める** 前述の「つくり隊」募集と同時並行で、へちまスポンジ利用のみ協力してくれるメンバー「つかい隊」を募った。最終的に 456 人が「つかい隊」に参加した。また、プロジェクト参加者、協力者に対し、計 267 通のへちま感謝状を作成。へちま収穫祭参加者に手渡し、もしくは郵送により贈呈した。 **○イベントの開催** **・キックオフ会** 日時：４月６日（日）午前 場所：ＯＭソーラー社屋（村櫛町） 人数：30 人 内容：参加希望者に対し、プロジェクトの説明、チラシの配布、ポスター掲示協力のお願いを行い、へちまの苗作り体験を実施した。

	・へちま収穫祭 日時：10月19日（日）午前 場所：OMソーラー社屋（村櫛町） 人数：30人 内容：へちま栽培に挑戦した参加者同士で、栽培で上手くいったことや苦労したことなどの体験談を共有した。また、へちまの実を長期間水に漬けてスポンジを作る体験を実施したり、OMソーラー隣接地の畑でへちまの収穫を体験したりした。 **・満月へちま会** 住宅事情等により自宅でへちま栽培、グリーンカーテンづくりができない参加者を対象に、満月の頃に合わせて団体所在地（深萩町）でへちま栽培を体験できる定期イベント。各回10名以上が参加した。 ①4月13日　畑作り、種まき ②5月13日　へちまの定植、へちま棚で使用する竹の準備 ③6月11日　へちま棚作り、摘心、芽と花の試食 ④7月11日　蔓のお手入れ ⑤8月9日　酷暑対策、へちま茶の試飲、実の試食 ⑥9月8日　スポンジ作り、へちま水採取、種取り **・中部浄化センターでのグリーンカーテンづくり** 瓜内町にある中部浄化センターで、下水処理の仕組みを学びながらへちま栽培、グリーンカーテンづくりに挑戦した。浜松市ボーイスカウト5団体70人が苗植えから収穫まで通しで参加。 ①6月8日　下水処理の仕組みに関する講義、施設見学、苗植え。 ②8月3日　真夏のへちま観察。グリーンカーテンの有無による室内温度の調査。 ③10月4日　へちまの収穫。 **・三ヶ日図書館でのグリーンカーテンづくり** テラス、入り口など三ヶ日図書館の複数個所でへちま栽培・グリーンカーテンづくりを実施。図書館の企画として、「緑のカーテンの書籍コーナー」「へちまのお話会」「スポンジ作りとへちま水採取体験会」を実施した。 **○イベントでの出展** ・オーガニックマーケット 日時：4月13日（日）、27日（日）、5月25日（日） 場所：ビオあつみ（中央区砂山町） 目的：プロジェクトの宣伝、へちま苗の配布

	・フェアトレードマーケット 日時：4月20日（日） 場所：佐鳴湖公園 目的：プロジェクトの宣伝、へちま苗の配布 ・浜松環境にEフェス（環境政策課主催） 日時：7月31日（木） 場所：浜北協働センター ・上下水道フェア（上下水道局主催） 日時：9月7日（日） 場所：ぷれ葉ウォーク浜北 ・踊る！えんの市（浜松盆部主催） 日時：9月20日（土） 場所：宝林寺（細江町中川） **○広報活動** ・メルマガの配信 4月から10月にかけて、月1回のペースで時期ごとのへちま栽培のポイントをメルマガで配信した。 ・noteの更新 プロジェクト参加者向けに、へちまの価値を伝えるブログ。本年度は「Vol.6 へちまが育む図書館のカタチ」を投稿した。 ・各種メディア等での掲載 ・静岡新聞「へちまで環境負荷減へ」（4月10日） https://news.at-s.com/article/1694441 ・中日新聞三面「この人」（5月16日） ・静岡新聞 「静岡人インタビュー『へちまで環境保全に取り組む五明三佳さん』」（5月23日）https://news.at-s.com/article/1723881 ・K-MIX「コスモ アースコンシャス」（5月30日、6月6日）
事業目的の達成度	**○へちまのポテンシャルの高さを認知拡大させる** 2年目ということで、昨年から引き続き参加してくれた方や新たにメディア掲載されたことで、参加目標（50団体、個人400人）を上回る93団体、708人（つくり隊252人、つかい隊456人）が参加し、へちまのポテンシャルの高さの認知拡大ができたと考えている。

	○へちまを通じて西地域の環境改善意識を高める 村櫛町や深萩町でへちま栽培イベントを開催し、直接へちまに触れてられる機会を設けたことで、西地域内で環境改善意識を高めるきっかけを提供することができた。
地域資源の活用度	**○へちま栽培に適した天候・自然環境** かつての西地域でも、各家庭で育てて活用していたへちま。休耕地や庭の空きスペース、使っていなかったプランターなど開いていた場所をへちま栽培の場所として活用した方々も多く見られた。へちま収穫祭で参加者同士が栽培体験談をシェアしたところ、おおむね栽培に成功したという方が多く、浜松のへちま栽培に適した自然環境を生かせたと思われる。 **○浜松でへちまを広めた織田利三郎の歴史** 織田利三郎は、かつて浜松市でへちま産業を築き上げた人物である。キックオフ会やパンフレット等で、織田利三郎の功績に触れながら浜松とへちまの関係を参加者に周知することができた。
地域への貢献度	地域住民と一緒に、へちま栽培やスポンジ作り体験を協力して実施したことで、地域住民にへちまのポテンシャルの高さを知るきっかけを提供することができた。 また、メディアで取上げていただく範囲が広くなり、浜松市西地域の魅力を知ってもらえる機会も増えた。首都圏ローカルのテレビ朝日「未来につなぐエール」（地方は BS 朝日にて放送）では、短い番組の中で浜松市西地域の紹介もしてもらえた。また、中日新聞「この人」に掲載され、東海北信エリアの８県で本プロジェクトが紹介された。
財政支援の妥当性	参加者目標数は、50 団体、個人 400 人としていたが、今年度は目標を上回る 93 団体、708 人（つくり隊 252 人、つかい隊 456 人）が本プロジェクトに参加した。当初の予定よりも多くの団体・人々に、へちまの素晴らしさを周知できたと考えている。 また、弊団体は浜松市から「地方創生 SDGs 取組表彰」を受賞し、浜松市の SDGs の取り組みへの貢献を認められた。
費用対効果	事業の広報としてチラシやポスター、のぼり旗を店舗や図書館などに掲示・設置してもらったほか、本年度も各種メディアに 10 回以上取り上げられ、浜松市から SDGs 取組表彰をいただいた。本プロジェクトの周知を低費用で効果的に行うことができたと考えている。

今後の方向性	2024年度に引き続き、下記の一月間に雨が降らなかったことなどの酷暑の影響はありましたが、団体で栽培のポイントなどを丁寧に伝えたこともあり、実がなった喜びの声をいただくことができました。今年度の計画では紙の通信を配布する予定でしたが、「満月へちま会」を開催したため、疑問のある方に直接お会いしながらサポートすることができたため、通信の発行を見送りました。 このような経緯から、接点を持つことが重要だとわかり、今年度トライした「満月へちま会」を引き続き行うこと、そして、キックオフ会やへちまの加工体験会を、この2年間で栽培にお取り組みいただいていた団体の所在地などで、複数開催することを計画していきたいと考えています。
備考	

第１１号様式（第１０条関係）

収支決算書

1　収入の部　　単位：円

区分	決算額	予算額	比較		経費内訳（単価・数量）
			増	△減	
補助金	138,000	138,000			地域力向上事業（市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金）
計	347,187	346,000	1,187		

2　支出の部　　単位：円

区分	補助対象※	決算額	予算額	比較		経費内訳（単価・数量）
				増	△減	
賃金	○	34,639	35,000		△361	別紙参照
消耗品	○	52,728	52,000	728		別紙参照
印刷製本費	○	100,713	100,000	713		別紙参照
郵便料	○	36,980	35,000	1,980		別紙参照
委託料	○	20,000	20,000			別紙参照
使用料賃借料	○	54,860	54,000	860		別紙参照
原材料費	○	47,267	50,000		△2,733	別紙参照
計		347,187	346,000	1,187		
うち補助対象経費		347,187	346,000	1,187		

※補助対象事業に○を記載してください。

番号	区分	金額	日付	購入物・内容
1	賃金	8272	4月6日	イベント補助4H、封入作業4H
2		8272	4月6日	イベント補助4H、封入作業4H
3		3102	4月13日	イベント補助3H
4		4136	6月11日	イベント補助4H
5		6721	7月31日	イベント補助6.5H
6		4136	8月9日	イベント補助4H
		34639		
7	消耗品	2200	9月5日	ボトルキャップ
8		946	9月6日	アイラップ
9		6072	4月6日	有機性ポット
10		2384	4月23日	へちま棚材料
11		2386	6月2日	支柱
12		18390	4月29日	支柱
13		218	5月18日	土
14		598	4月18日	土
15		1896	4月4日	土
16		12000	4月15日	へちま
17		5638	4月2日	ラベルシール
		52728		
18	印刷製本費	270	10月3日	コピー代
19		1500	10月3日	コピー代
20		57013	4月4日	のぼり印刷代
21		37740	12月21日	チラシ印刷代
22		4190	12月21日	感謝状印刷代
		100713		
23	郵便費	17600	4月4日	案内送付切手代
24		4675	12月24日	感謝状送付切手代
25		14705	12月17日	感謝状送付切手代
		36980		
26	委託料	10000	12月10日	記事作成
27		10000	2月27日	記事作成
		20000		
28	使用料	1500	4月20日	フェアトレードマーケット出店料
29		36200	8月31日	Adobe使用料（年86,880÷12月×5か月）
30		17160	9月1日	Adobe使用料（年102,960÷12月×2か月）
		54860		
32	原材料費	35000	4月18日	へちま苗代
33		12267	4月18日	へちま苗用ポット代
		47267		
		347187		総事業費（補助対象経費）

助成事業 No. 4

＜ 令和7年度 ＞　（ 中央区 西行政センター ）

(1)事業名	浜名湖クルーズ ～船から見る伊佐見と浜名湖の生き物体験事業～	(2)採択回数	3回目 (補助率25%以内)
(3)実施団体名	伊佐見地区コミュニティ協議会		
(4)事業の目的	1 小学生及び伊佐見地区自治会役員が地元の再発見をする。 2 浜名湖やアマモについて学び、環境保全意識を高める。 3 路線バスを日常的に使用するきっかけをつくる。		

(5)事業の成果(内容)

イベント名	浜名湖クルーズ ～船から見る伊佐見と浜名湖の生き物体験事業～
実施時期	令和7年4月1日(火) ～ 令和7年12月31日(水)
実施場所	伊佐見湖上～村櫛浅瀬～新居海浜公園～ウォット、伊佐見協働センター
内容	1 浜名湖探検クルーズ(6月26日) ・伊佐見小学校3年生の児童、教員、伊佐見地区自治会連合会役員、伊佐地川と浜名湖を愛する会の会員を対象に、遊覧船による浜名湖探検クルーズを実施。 ・下船後は浜名湖体験学習施設ウォットに移動し、浜名湖の水生生物や環境について職員より説明を受け、浜名湖の知見を深めた。 2 絵画コンテスト・展示(11月8日、9日) ・伊佐見小学校児童には、本事業で学んだ事を絵画にしてもらい、合計75点の作品が集まった。 ・75点の作品のうち、特に優秀な10点を選抜し、伊佐見協働センターまつりで表彰・展示した。

(6)総事業費	384,158円	(7)補助金額	96,000円

(8)評 価

項 目	評価 A	評価 B	評価 C
1 事業目的の達成度	高い	(普通)	低い
2 地域資源の活用度	(高い)	普通	低い
3 地域への貢献度	(高い)	普通	低い
4 財政支援の妥当性	(高い)	普通	低い
5 費用対効果	高い	(普通)	低い

(9)意見等

1 事業目的の達成度
・湖上という普段では見られない視点から地元伊佐見を見つめ直し、郷土愛を深める機会を提供できた。
・浜名湖の生態系や環境に関する課題を身をもって体感し、環境保全意識を高めるきっかけを提供できた。
・小学生に路線バスの乗り方について学習してもらい、日常的に路線バスを利用しようとするきっかけ作りになった。
・小学生の浜名湖クルーズの絵を通し、伊佐見地区や浜名湖の魅力と課題を地域住民に考えてもらうきっかけとなった。
2 地域資源の活用度
・伊佐見の自然と浜名湖の魅力を五感をもって体感することができた。
・地域の諸団体の協力を得て円滑に事業を進めることができた。
3 地域への貢献度
・小学生が地元への関心や環境保全意識を高める機会を提供できた。
・地域全体で「浜名湖を大切にしよう」という意識を高めるきっかけを提供できた。
4 財政支援の妥当性
・地域のこどもたちが地元や浜名湖について理解を深めるため、船から地元の様子や浜名湖の湖上環境を観察することができた。
5 費用対効果
・伊佐見地区の住民に、船から浜名湖を観察するという貴重な体験を提供することができた。

第１０号様式（第１０条関係）

事業実績書

事業名	浜名湖クルーズ　～船から見る伊佐見と浜名湖の生き物体験事業～
事業主体名 （共催、後援、協力等）	伊佐見地区コミュニティ協議会
実施時期	令和７年４月１日（火）　～　令和７年１２月３１日（水）
実施場所	伊佐見湖上～村櫛浅瀬～新居海浜公園～ウォット、伊佐見協働センター
参加人数	団体スタッフ　１９人　、参加者　１１０人
事業の内容	**・浜名湖探検クルーズ** 伊佐見小学校３年生の児童、教員、伊佐見地区自治会連合会役員、伊佐地川と浜名湖を愛する会の会員を対象に、遊覧船による浜名湖探検クルーズを実施。下船後は浜名湖体験学習施設ウォットに移動し、浜名湖の生物、環境について職員より説明を受けた。 **日　時**：令和７年６月 26 日（木）９時～15 時 **参加者**：伊佐見小学校児童 75 人、教員５人、自治会役員８人、 浜名湖を愛する会役員５人、その他 17 人 **場　所**：**①佐浜沖** 自分たちが普段生活している伊佐見地区を、湖上という普段からは見ることのできない視点から観察して再認識した。 **②村櫛浅瀬** 下船して水の中に入り、アマモの生育場所や水中生物の観察を行う予定だったが、大潮のため水位が高く急遽中止とした。船上で船頭により、浜名湖の問題点やその対策、生態系、漁業に関する説明を受けた。 **③新居弁天海浜公園** 下船前に今切口に接近し、伊佐見付近の水面と今切口の水面の違いを観察し、浜名湖が太平洋とつながっていることを実感してもらった。下船後、村櫛浅瀬で水に入れなかった代わりに、新居海浜公園の海水浴場で水の中に入り、水中生物の捕獲・観察を行った。 **④ウォット見学** 貸切バスで浜名湖体験学習施設ウォットに移動。浜名湖に生息する生物の観察したり、職員から浜名湖の生物多様性や湖上環境に関する説明を受けたり、水中生物に触れたりする体験を通し、自分たちにとって身近な存在である浜名湖の知見を深めて見つめ直すきっかけを提供した。

	・絵画コンテスト、展示 　伊佐見小学校児童には、本事業で学んだ事を絵画にしてもらった。合計７５点の作品が集まり、その中で特に優秀な１０点を選抜し、伊佐見協働センターまつりで表彰・展示した。児童の絵画を通し、地域住民に「浜名湖を大切にしよう」とアピールする機会となった。
事業目的の 達成度	**・小学生及び自治会役員が地元の再発見をすること** 　乗船した小学生と自治会役員が、湖上という普段では見られない視点から地元伊佐見を見つめ直したり、浜名湖の生物について現地で学習したりすることができた。地上では気付かなかった伊佐見の良さを再発見し、地域について関心と郷土愛を深める機会を提供できた。 **・浜名湖の環境保護の意識を高めること** 　遊覧船の船頭から浜名湖の湖上環境に関する話を聞くこと、アマモの生育場所を船から観察すること、ウォットで浜名湖の生物を観察することを通し、浜名湖の生態系や環境に関する課題を身をもって体感し、環境保全意識を高めるきっかけを提供できた。 **・路線バス利用促進** 　小学生に路線バスの乗り方について学習してもらい、路線バスに対する抵抗を減らし、日常的に路線バスを利用しようとするきっかけ作りになった。 **・地域住民に環境保護を訴えること** 　小学生が描いた浜名湖クルーズの絵を伊佐見協働センターで展示したことで、多くの地域住民の目に入り、伊佐見地区や浜名湖の魅力と課題について地域住民に考えてもらうきっかけを提供できた。
地域資源の 活用度	**・伊佐見の自然と浜名湖の湖上環境** 　伊佐見地区は浜名湖の湖畔にある自然豊かな地域だ。船に乗って湖上という普段は見ることの視点から地元を観察することができ、伊佐見地区の良さと課題を五感で体感することができた。

	・各種地域団体の協力 　伊佐見地区自治会連合会、浜名湖と伊佐地川を愛する会などの各種地域団体が積極的に運営に参加してくれて、地元の理解のもと、大きな事故や混乱もなく円滑に事業を進めることができた。また、村櫛遊漁組合が本事業への理解を示し、本年度も快く遊覧船の賃貸借、操船に協力してくれた。
地域への 貢献度	**・小学生の地元への関心増** 　湖上という普段では見られない視点から伊佐見地区を観察したことで、普段自分たちが暮らしている地域の新しい一面を発見し、地元への興味関心が高まったと感じている。また、身近な浜名湖について生物や湖上環境について学んだ事で、こどもたちの環境保全意識を高められたと思われる。 **・地域の「浜名湖を大切にしよう」という機運の向上** 　クルーズに参加した小学生が親や祖父母に感想を共有したことで、地域の幅広い世代に浜名湖の良さや課題を共有できた。また、小学生が描いた絵の一部を、伊佐見協働センターまつりで展示し地域住民に見てもらったことで、地域全体で「浜名湖を大切にしよう」という機運を高められたと思われる。
財政支援の 妥当性	地域のこどもたち（小学３年生）を主対象として、身近な浜名湖を非日常的な視点より見るという貴重な機会を提供することができた。こどもたちが郷土愛を深めるきっかけとなり、財政支援は有効であったと思われる。
費用対効果	観光船や貸切バスの借上げ等の費用は高額だが、日頃見ることができない視点から浜名湖・伊佐見地区の素晴らしさを体感するというのは、滅多にできない貴重な体験をこどもたちや地域関係者に提供することができた。本事業を通して浜名湖を大切にしようという機運が地域に広まり、費用に見合う効果が生まれたと感じている。
今後の方向性	今回で３年目となり、次年度以降は助成事業補助金の対象とはならない。伊佐見地区自治会連合会、浜名湖と伊佐地川を愛する会など各種地域団体と一層連携をとり、来年度以降も事業を継続していく予定だ。本事業を、当地区の伝統事業として定着させていきたい。
備考	

第１１号様式（第１０条関係）

収支決算書

１　収入の部　　単位：円

区分	決算額	予算額	比較		経費内訳（単価・数量）
			増	△減	
補助金	96,000	116,000		△20,000	地域力向上事業（市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金）
計	384,158	467,000		△87,842	

２　支出の部　　単位：円

区分	補助対象※	決算額	予算額	比較		経費内訳（単価・数量）
				増	△減	
消耗品	○	62,318	70,000		△7,682	・氷代　1,620 ・絵画コンテスト景品代　60,698
食糧費	○	5,080	0	5,080		・お茶代　5,080
電話・郵便代	○	1,100	1,000	100		・切手代　1,100
保険料	○	17,500	30,000		△12,500	・共栄火災　17,500
手数料	○	2,640	2,000	640		・手数料　880×3
使用料・賃借料	○	295,520	364,000		△68,480	・バス　132,800 ・遊覧船　160,000 ・駐車料　800 ・ウォット入場料　320×6
使用料・賃借料		0	5,000		△5,000	
計		384,158	472,000		△87,842	
うち補助対象経費		384,158	467,000		△82,842	

※補助対象事業に○を記載してください。

助成事業 No. 5

＜ 令和7年度 ＞　（ 中央区 西行政センター ）

(1)事業名	伊佐見田んぼアート	(2)採択回数	2回目 (補助率40%以内)
(3)実施団体名	伊佐見地区コミュニティ協議会		
(4)事業の目的	1 地域住民が地元の歴史や魅力を再認識する。 2 地域住民の交流・親睦を促進する。		

(5)事業の成果（内容）

イベント名	伊佐見田んぼアート
実施時期	令和7年4月1日（火） ～ 令和7年12月31日（水）
実施場所	伊佐見協働センター隣接地、伊佐見協働センター
内容	1 伊佐見田んぼアート（6月から10月） ・伊佐見協働センターに隣接する田んぼ（面積420坪）を借用し、ナウマンゾウをモチーフとした田んぼアートを実施した。 2 餅つき大会（11月8日） ・地域のこどもを中心に約200人が参加。 ・ついた餅はきなこ餅とあんこ餅にして来場者に無償で振る舞った。 ・伊佐見協働センターまつり1日目に開催。 3 もち米の販売、餅投げ（11月9日） ・体育館で田んぼアートに関する展示を行いながら、もち米を販売した。 ・収穫したもち米を投げ餅に加工し、協働センターまつり終盤に体育館で餅投げを行った。 4 れんげ草の種まき（11月11日） ・刈り取り後の田んぼにれんげ草の種をまいた。 ・伊佐見小学校2年生の児童75人、伊佐見幼稚園の児童17人が参加。

(6)総事業費	703,763円	(7)補助金額	281,000円

(8)評 価

項 目	評価 A	評価 B	評価 C
1 事業目的の達成度	(高い)	普通	低い
2 地域資源の活用度	(高い)	普通	低い
3 地域への貢献度	(高い)	普通	低い
4 財政支援の妥当性	(高い)	普通	低い
5 費用対効果	高い	(普通)	低い

(9)意見等

1 事業目的の達成度
・田んぼアートを通して、地域住民が地元のナウマンゾウの歴史を再認識できた。
・田植え、田んぼアート鑑賞、餅つきなど、地域住民が交流する場を提供できた。
2 地域資源の活用度
・田んぼアートのモチーフとして、ナウマンゾウを活用した。
・地元在住の稲作農家や建築士など、各種専門家の協力を得て田んぼアートを実施した。
3 地域への貢献度
・地域住民が田んぼアートという共通の話題を持つことで、地域の一体感を高めるのに寄与した。
・伊佐見地区の活動やナウマンゾウの歴史を広くアピールすることができた。
4 財政支援の妥当性
・地域住民を巻き込みながら事業を行い、地域コミュニティ強化に寄与した。
5 費用対効果
・新聞で取り上げられたことで、地域住民以外も田んぼアートを楽しみ、伊佐見について知るきっかけとなった。

第１０号様式（第１０条関係）

事業実績書

<table>
<tr><td>事業名</td><td>伊佐見田んぼアート</td></tr>
<tr><td>事業主体名
（共催、後援、協力等）</td><td>伊佐見地区コミュニティ協議会</td></tr>
<tr><td>実施時期</td><td>令和７年４月１日（火）　～　令和７年 12 月 31 日（水）</td></tr>
<tr><td>実施場所</td><td>伊佐見協働センター隣接地、伊佐見協働センター</td></tr>
<tr><td>参加人数</td><td>団体スタッフ　30 人　、参加者　460 人</td></tr>
<tr><td>事業の内容</td><td>

・伊佐見田んぼアート

伊佐見協働センターに隣接する田んぼ（面積 420 坪）を借用し、ナウマンゾウをモチーフとした田んぼアートを実施した。今年は、種籾を育てて自力で苗を作ってから田植えを実施した。田植えから稲刈りまでの動きは下記の通り。

<table>
<tr><th>内容</th><th>日付</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>籾まき</td><td>５月２日</td><td>籾から苗を作る作業。地域のボランティア 10 人が参加。</td></tr>
<tr><td>田んぼの代かき</td><td>５月下旬</td><td>田植え前に土の表面を平らにする作業。地域のボランティア６人が参加。</td></tr>
<tr><td>田植え</td><td>６月 14 日</td><td>回覧で地域住民に参加を呼び掛け、150 人が参加（うち 20 人が小学生）</td></tr>
<tr><td>草刈り</td><td>７月～８月</td><td>団体役員９人×６回実施</td></tr>
<tr><td>やぐら設置</td><td>８月 23 日</td><td>協働センター駐車場に、田んぼアート鑑賞用のやぐらを設置。</td></tr>
<tr><td>田んぼアート鑑賞</td><td>８月～10 月</td><td>のべ 1,500 人以上の地域住民がやぐらに上り、上から田んぼアートを鑑賞した。また、中日新聞（9/18）や静岡新聞（9/21）にも紹介記事が掲載された。</td></tr>
<tr><td>稲刈り</td><td>10 月 23 日</td><td>団体役員８人で実施。精米後の計量で 350kg のもち米を収穫した。</td></tr>
</table>

・餅つき大会

伊佐見協働センターまつり１日目に開催。収穫したもち米の一部を使って餅つき大会を実施した。地域のこどもを中心に約 200 人が参加し、ついた餅はきなこ餅とあんこ餅にして地域住民に無償で振る舞い、多くの方に田んぼアートで作ったもち米を楽しんでもらった。

日時：１１月８日（土）

</td></tr>
</table>

	・もち米の販売、餅投げ 伊佐見協働センターまつり２日目に実施。体育館で田んぼアートに関する展示を行いながら、もち米の販売を行った。１袋 1.4kg1000 円で販売し、来場者によって 59 袋売ることができた。 また、収穫したもち米を投げ餅に加工し、協働センターまつり終盤に体育館で餅投げを行った。体育館には幅広い世代の地域住民約 400 人が集まり、田んぼアートで作った餅を持ち帰った。 日時：１１月９日（日） **・れんげ草の種まき** オフシーズンの田んぼも楽しんでもらうこと、枯れた後は次年度の土の肥やしとすることを目的として、れんげ草の種を刈り取り後の田んぼに蒔いた。この種蒔きには、伊佐見小学校２年生の児童 75 人、伊佐見幼稚園の児童 17 人が参加した。 日時：１１月１１日（火）
事業目的の達成度	**・地元の歴史や魅力の再認識** 伊佐見地区が誇るナウマンゾウの歴史を、田んぼアートを通して地域住民に改めて知ってもらう機会にすることができた。中には、田んぼアートで伊佐見のナウマンゾウに興味を持ち、自由研究の題材にした小学生がいるという話も聞いており、地域住民が田んぼアートを機に地元の歴史や魅力を再発見できたと言える。 **・地域住民の交流の場の創出** 田植え、田んぼアート鑑賞、餅つき、餅投げなど、一連の事業の中で地域住民が交流できる場を創出することができた。特に、小学生とシニア世代が一緒に田植えや餅つきを行う光景が見られ、世代間交流の良い機会になったと考えている。
地域資源の活用度	**・佐浜町のナウマンゾウ** 田んぼアートのデザインとして、伊佐見地区の誇りであるナウマンゾウをモチーフとした。

	・地元の各種専門家の協力 伊佐見地区は稲作農家が多数あり、本事業に際し米農家の方から多くのアドバイスをいただいた。また、図面の設計には地元の一級建築士に協力をお願いしており、地域の様々な分野の専門家に協力してもらって田んぼアートを浮かび上がらせることに成功した。また、田んぼアートを眺めるための物見やぐらの建設も地元建設業者に協力いただき、伊佐見在住の各種専門家の知恵・知識を集約して本事業を実施することができた。
地域への 貢献度	・地域コミュニティの強化 地域住民が田んぼアートという共通のものを愛でることで、地域の一体感を高める機会になったと考えている。田植えや餅つきなど各種イベントには多くの地域住民が世代に関係なく参加し、地域コミュニティの強化につながる事業になったと思われる。 ・伊佐見地区のアピール 田んぼアートの紹介記事が静岡新聞と中日新聞に掲載されたことで、広い範囲で伊佐見地区の取り組みやナウマンゾウの歴史を周知することができた。田んぼアートを見るために地域外から訪れた人も一定数いて、伊佐見地区を広くアピールできたと考えている。
財政支援の 妥当性	市の財政支援を受けて事業を行なったことで規模を大きくすることができ、地域住民を巻き込みながら事業を実施することができた。地域コミュニティの強化につながる事業を実施できたと思われる。
費用対効果	田んぼアートには多くの地域住民が鑑賞に訪れ、田んぼアートを通じて伊佐見のナウマンゾウの歴史や稲作を地域住民に広く知ってもらう事ができた。また、静岡新聞と中日新聞にも田んぼアートの紹介記事が掲載され、地域住民だけでなく広域にわたって伊佐見地区の活動の PR をすることができた。伊佐見地区の魅力を多くの人に知ってもらうという費用に見合った効果が発生したと考えている。

今後の方向性	令和８年度も地域力向上事業（助成事業）に提案する方針。これまでとは異なる点として、田んぼアートのデザインを地元の小学生に募集し、３点程度のアイデアを融合させた図案を田んぼアートで表現する。採用された小学生は、伊佐見協働センターまつりで表彰し、応募された田んぼアートデザイン案の一部を展示する。
備考	

第１１号様式（第１０条関係）

収支決算書

1　収入の部　　単位：円

区分	決算額	予算額	比較		経費内訳（単価・数量）
			増	△減	
補助金	281,000	316,000		△35,000	地域力向上事業（市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金）
計	703,763	790,000			

2　支出の部　　単位：円

区分	補助対象※	決算額	予算額	比較		経費内訳（単価・数量）
				増	△減	
報償費	○	141,267	150,000		△8,733	・技術指導 70,000 ・代かき 20,000 ・稲刈り 15,000 ・籾摺り 15,543 ・精米 20,724
消耗品	○	85,649	105,000		△19,351	・肥料 25,000 ・消毒 5,000 ・田植え用品 42,204 ・米袋 12,441 ・トッピング 1,004
食糧費	○	10,175	20,000		△9,825	・お茶 10,175
印刷製本費	○	54,557	80,000		△25,443	・のぼり印刷 37,074 ・チラシ印刷 4,478 ・インク代 13,005
保険料	○	68,500	85,000		△16,500	・共栄火災３件
手数料	○	106,760	120,000		△13,240	・振込手数料 1,760 ・投げ餅作成 105,000
委託料	○	154,000	150,000	4,000		・やぐら設置 154,000

使用料及び賃借料	○	38,000	30,000	8,000		・借地料 20,000 ・農機具賃借 18,000
原材料費	○	44,855	50,000		△5,145	・種籾代 29,720 ・れんげ草種 5,135 ・苗代 10,000
計		703,763	790,000		△86,237	
うち補助対象経費		703,763	790,000		△86,237	

※補助対象事業に○を記載してください。

助成事業 No. 6

＜ 令和7年度 ＞　（ 中央区　西行政センター ）

(1)事業名	伊佐見小学校150周年記念事業	(2)採択回数	1回目 (補助率50%以内)
(3)実施団体名	浜松市立伊佐見小学校PTA		
(4)事業の目的	1　地域コミュニティの強化 2 「地域でこどもたちを育てる」という意識の醸成 3　こどもたちの地域を愛する心の育成		

(5)事業の成果（内容）

イベント名	伊佐見小学校150周年記念事業
実施時期	令和7年4月1日（火）　～　令和7年9月30日（火）
実施場所	伊佐見小学校、サーラ音楽ホール
内容	1　150周年記念記念音楽鑑賞会（6月20日） ・浜松市出身メンバーがいる音楽ユニット「オランジェ」を招待し、小学校の体育館でクラシック音楽や人気歌謡曲の演奏を鑑賞。 ・校歌や「森の水車」の演奏に合わせて生徒が合唱した。 2　150周年記念式典（9月27日） ・午前は各学年の音楽発表 ・午後は伊佐見小OBの絵本作家・鈴木のりたけ氏の特別講演。テーマは「おもしろがると世界が広がる」 3　航空写真撮影（5月26日） ・小学校運動場で、全校生徒・教職員で伊佐見小学校の校章を再現し、上空から撮影。 ・写真はクリアファイルにして配布したほか、希望者に販売した。 4 「森の水車」レプリカ作成・お披露目（6月20日） ・伊佐見小学校のシンボルである水車小屋レプリカを改修。 ・音楽鑑賞会に合わせて、生徒だけでなく保護者や地域住民にも新しい水車を披露した。

(6)総事業費	2,541,842円	(7)補助金額	232,000円

(8)評　価

項　目	評価 A	評価 B	評価 C
1　事業目的の達成度	高い	(普通)	低い
2　地域資源の活用度	高い	(普通)	低い
3　地域への貢献度	高い	(普通)	低い
4　財政支援の妥当性	高い	(普通)	低い
5　費用対効果	高い	(普通)	低い

(9)意見等

1　事業目的の達成度
・事業を通して、地域の大人とこどもが交流する機会となった。
・森の水車、郷土の歌、地元出身の有名人など伊佐見地区とゆかりのあるものを通じて、こどもたちが地元を見直し愛着を深めるきっかけを提供することできた。
2　地域資源の活用度
・伊佐見のシンボルである「森の水車」を改修して地域住民に披露する機会を提供できた。
・伊佐見小学校卒業生である鈴木のりたけ氏の講演会を取り入れ、地域の有名人を生かした事業となった。
※伊佐見地区と「森の水車」の関係について
「♪コトコトコットン」で知られる童謡「森の水車」は、伊佐見出身の作詞家・清水みのるが作詞した曲である。
3　地域への貢献度
・地域住民に、鈴木のりたけ氏の講演を聞く機会を提供することができた。
4　財政支援の妥当性
・小学生と地域住民が世代を越えて交流する場となった。
5　費用対効果
・音楽鑑賞会や記念式典に、保護者や地域住民が参加することができた。

第１０号様式（第１０条関係）

事業実績書

事業名	伊佐見小学校１５０周年記念事業
事業主体名 （共催、後援、協力等）	浜松市立伊佐見小学校 PTA
実施時期	令和７年４月１日（火）　～　　令和７年９月２７日（土）
実施場所	浜松市立伊佐見小学校、浜松市民音楽ホール（サーラ音楽ホール）
参加人数	団体スタッフ　１０名 参加者　児童４５４名、保護者・地域住民 約４５０名
事業の内容	①　１５０周年記念音楽鑑賞会 音楽ユニット「オランジェ」を招き、伊佐見小学校児童及び伊佐見地区住民を対象とした音楽鑑賞会を開催した。曲目は、伊佐見小学校校歌や「森の水車」など、伊佐見地区にゆかりのある曲を中心に選び、世代を越えて郷土の音楽を楽しむ機会とした。二部構成とし、第一部は伊佐見小学校の奇数学年の児童、第二部は偶数学年の児童が鑑賞し、保護者・地域住民はどちらの部でも鑑賞できるようにした。第一部と第二部合わせて、保護者と地域住民が約 80 人来場した。 オランジェ：東京を中心に活躍する４名の音楽ユニットで、メンバー全員が浜松市内の学校の卒業生でうち１名の母は浜松市の教員。西地域では、過去に神久呂小学校で公演を実施した実績がある。 【日時】令和７年６月２０日（金）午前 【会場】伊佐見小学校体育館 ②　１５０周年記念式典 例年実施している伊佐見小学校音楽発表会だが、今年はスローガンを「かがやけ伊佐見っ子、150 年の歴史をメロディにのせて」とし、特別ゲストによる講演会を取り入れる等、例年とは異なる特別な音楽発表会（記念式典）とした。児童・保護者・教職員・地域住民が一丸となって、伊佐見小学校のメモリアルイヤーをお祝いする場を提供した。 午前中は、学年ごとに合唱や合奏などの音楽発表を行った。午後は、伊佐見小学校出身で現在絵本作家として活躍する鈴木のりたけ氏の講演会を行った。式典の最後に、伊佐見地区にゆかりのある曲である「森の水車」を全員で合唱した。全校生徒と職員のほか、保護者が 400 人、地域住民が 50 人ほど来場した。 【日時】令和７年９月２７日（土）　午前９時～ 【会場】浜松市民音楽ホール（サーラ音楽ホール） 【プログラム】　開会式 児童による発表（学年ごと） 昼食休憩 鈴木のりたけ氏講演会 全校児童「森の水車」合唱、閉会式

	③ 航空写真撮影 伊佐見小学校運動場で航空写真撮影を行った。校章を児童・教職員による人文字で再現してドローンで上空から撮影した。撮影した写真はクリアファイルにして全校児童・学校関係者に配布した。航空写真により、伊佐見地区が豊かな自然に囲まれた地域であることに改めて気付き、児童が郷土のことを知り愛着を深める事に一役買ったのではないかと思う。 当初は、児童から募集した150周年記念ロゴを人文字で再現する予定で、計174点のアイデアが生徒から集まった。しかし、いずれも人文字で再現するのは困難だったため、校章を人文字で再現することになった。 【日時】令和７年５月２６日（月）午前 【場所】伊佐見小学校運動場 ④ 「森の水車」改修 伊佐見地区の代名詞でもある森の水車だが、伊佐見小学校正門内に設置してある水車が老朽化していたため、開校150周年を機に新しく作り直した。水車の披露は、「①音楽鑑賞会」と同日の６月20日朝に行った。 【水車お披露目集会】 体育館に全校児童を集め、じゃんけん列車やダンスなどの全校レクリエーションを行った後、児童のカウントダウンと共に新しい水車の写真がスクリーンに映し出され、児童から歓声が上がった。
事業目的の 達成度	■地域コミュニティの強化 音楽鑑賞会や150周年記念式典等に保護者や地域住民を招き、一緒に鑑賞したり歌ったりと児童と地域住民が触れ合う機会を多く提供した。児童にとって、地域との交流が身近なものになり、地域の秋まつり、伊佐見協働センターまつり、水車小屋コンサートなど地域イベントに参加する児童の数も去年と比べて増加した。地域コミュニティの結束を感じている。 ■地域でこどもたちを育てる意識の醸成 本事業を通して保護者や地域住民が学校教育現場に直接触れる機会を提供し、児童や職員の様子を見ていただける機会が増え、学習や学校行事のサポートに協力してくださる方が増えた。「地域でこどもたちを育てていこう」という意識が高まっていると感じる。 ■こどもたちの地域を愛する心の育成 事業を通し、水車小屋、童謡「森の水車」、伊佐見小出身の有名絵本作家など伊佐見地区の地域資源に直接触れたことで、こどもたちが改めて伊佐見地区の素晴らしさに気付き、地域を愛する心を育てられた。音楽鑑賞会では「一緒に校歌や『森の水車』を歌えて楽しかった」、記念式典では「小さいころから鈴木のりたけさんの絵本を読んでいたので、会ってお話が聞けてよかった」という感想がこどもたちから寄せられた。
地域資源の 活用度	■伊佐見地区出身で活躍されている地域の人材の活用 ９月２７日に開催した記念式典では、現在絵本作家として活躍している、鈴木のりたけ氏による講演会を行った。伊佐見小出身でこどもたちからも絶大な支持を集めている作家で、講演当日は鈴木氏の絵本を持参したこどもも多数見られた。演題は「おもしろがるとせかいがひろがる」。全国レベルで活躍するＯＢとの交流を通し、こどもたちは「何気ない日常でも視点を変えて捉えることで面白いものが見えてくる事」「不足しているものは自分の頭で補えばよい事」「面白いものは自分で開拓する事」の大切さを学べた。また、キャリア教育としてもこどもたちの良い刺激になった。

	■伊佐見地区のシンボル「森の水車」の披露 伊佐見地区のシンボルである水車をこどもたちにも伝えていきたいという思いから、伊佐見小学校の正門内には当時のＰＴＡが中心となって作製された水車が設置されていた。老朽化が進んでいたため改修工事を行った。水車は、地元住民に地域の歴史を広めるツールであり、地域住民の思いを後につないでいくものであると考えている。水車披露の際は、こどもたちのカウントダウンのもと、大歓声が上がった。また、披露当日は新しい水車を見に来ようと学校に足を運んだ地域住民や卒業生もいた。水車の披露を通し、地域住民の一体感を醸成する機会を提供できた。
地域への 貢献度	■児童と地域住民の交流の場の設定 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、地域主催のイベントの多くが開催取りやめになっていたが、地域住民や児童を対象としたイベントを開催したことで、学校が地域内での交流の場として機能した。こども同士及びこどもと大人が関わる場となった。
財政支援の 妥当性	オランジェによる音楽鑑賞会、鈴木のりたけ氏による講演会など、地域住民が参加できるイベントの開催を通し、伊佐見地区にゆかりのある曲や人材に触れながら、豊かな心、地域を愛する心の育成につながったと考えている。 伊佐見小学校開校１５０周年という記念すべき年であるため、できるだけ収容人数が多く、最新設備の整った浜松市民音楽ホールで記念式典を実施したいと考えた。当日は、保護者だけでなく、地域住民が参加したり、卒業生がボランティアとして式典の運営に協力してくれたりと、地域の皆さんの力を借りながら事業を進めることができた。会場の使用料や警備費、会場までの貸切バス代など例年よりも経費はかかったが、いつもの音楽発表会とは差別化された記憶に残り続ける質の高い事業を展開できたと考えている。
費用対効果	伊佐見小学校１５０周年記念事業を児童だけでなく、地域（地域住民）をまきこんで実施したことで、地域住民の「地域でこどもたちを見守り、育てていこう」という意識が高まった。児童には、地域を知って郷土愛を深める機会を提供することができた。
今後の方向性	開校１５０周年記念として実施した事業のため、来年度は事業を実施する予定はないが、今後、創立１６０周年記念事業を実施できるよう、準備を少しずつ進めていきたい。
備考	

第１１号様式（第１０条関係）

収支決算書

１　収入の部　　単位：円

区分	決算額	予算額	比較		経費内訳（単価・数量）
			増	△減	
補助金	232,000	232,000			地域力向上事業（市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金）
計	2,541,842	2,765,000		△223,158	

２　支出の部　　単位：円

区分	補助対象※	決算額	予算額	比較		経費内訳（単価・数量）
				増	△減	
報償費	○	179,822	190,000		△10,178	・オランジェ謝礼 66,822 ・オランジェ記念品 3,000 ・鈴木氏謝礼 110,000
旅費	○	53,660	65,000		△11,340	・オランジェ交通費 35,000 ・鈴木氏交通費 18,660
需用費		880	10,000		△9,120	・記念集会風船 880
委託料	○	94,600	74,000	20,600		・サーラ駐車場警備 92,400 ・航空写真撮影 2,200
委託料		1,101,760	1,100,000	1,760		・水車 1,101,760
使用料賃借料	○	160,720	126,000	34,720		・サーラ使用料 65,570 ・サーラ設備使用料 95,150
使用料賃借料		950,400	1,200,000		△249,600	・貸切バス 950,400 （サーラ⇔伊佐見小）
計		2,541,842	2,765,000		△223,158	
うち補助対象経費		488,802	455,000	33,802		

※補助対象事業に○を記載してください。